

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

記述式, 論述式, 選択式, 描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は例年通り3題であったが、全体の論述量は昨年の31行程度から20行程度と大きく減少し、問題文のページ数や文章量もやや減少したことから、全体としての分量はやや減少した。また、昨年同様、難度の高い考察問題が多く出題されており、難易度は昨年並みであったと考えられる。

出題の特徴と昨年との変更点

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1～3行程度の論述問題が多い。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述式 論述式 選択式	神経 動物の行動 遺伝子	生物	J アイソフォーム1のcDNAとGFPの遺伝子をつなぎ合わせた遺伝子を線虫で発現させ、緑色蛍光の位置が変化しないことから、アイソフォーム1が別の場所へ輸送されないことを確かめることができる。	標準
第2問	記述式 論述式 選択式	遺伝 植物の反応 生態 進化	生物	B ブドウやイチゴの果実では、リンゴやバナナなどの果実と異なり、エチレンの急激な生成はみられないが、生成されないわけではない。	難
第3問	記述式 論述式 選択式 描図	生態 進化	生物	J 下線部(エ)では、表層の食物の供給量が少なく競争が強いときに、種Bと種Cが異なる食物を食べている。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、その内容を正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心を持ち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。